

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第8号（通算91号）
令和3年12月23日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

さかえ学園



乗り入れ授業（栄北小）
自分の動きを時間差で遅れて
映像で確認する ICT 活用の授業
(12月7日)

学園としての取組のよさ

教育センター指導主事 井口 浩

本年度の三条市重点教科（算数・数学）研修が、先月末で終わりました。学園ベースで行う授業実践研修は、参加者が昨年度108人、本年度118人と、ともに100人を超えました。受講後のアンケートの肯定的評価は、昨年度も本年度も100%でした。いずれも高い評価が得られていますが、もっと大事なことは、授業者をはじめとする参加者がどのように取り組み、その過程で何を考え、どのような実感や納得を得たかという学びの質だと考えます。この点から本研修を振り返ると、私は、参加者の皆さんによって質の高い研修がつくられてきたと思います。

どの授業者も、期待する子どもの姿を描き、願いを込め、自分にとって授業が難しい分野の教材を研究し、指導案を何度も検討して実践していました。この過程で着実に子どもも教師も力量を高めていることが感じられました。「子どもたちのいつもとは違う面を見ることができてうれしかった」「一生懸命授業に取り組んでいる卒業生の姿を見て感動した」という声そのことを物語っています。「小学校1年の段階から、中学、高校の数学へつながっているのだと改めて思った」という感想が象徴するように、協議会では、子どもの学びの事実を基に、参加者一人一人が自分なりに学んだことを振り返ったり、算数・数学の指導内容を捉え直したりしながら、建設的に意見交換がされました。

このような学びは、学園としての取組によってもたらされていると思います。「三条市授業スタンダード」という共通の視点から検討したり、小中の学習内容や数学的活動のつながりを意識して議論を深めたりすることができるからです。これは学園としての取組のよさであり、対象教科等が変わっても生かすことができると思います。今後もこのような学びをみんなで持続的に発展させることを期待します。

学 園 紹 介

三条嵐南学園

総合的な学習の時間の発表



中学校1年生による小学校3年生に向けた発表

児童が飽きないようにクイズを取り入れ和やかな雰囲気での発表が行われていました。ある場所では、教職員が「中学生の発表はどうでしたか？」と尋ねたところ「すごかった。」と素直な反応が返ってきていました。小学生は中学生へ憧れを抱き、中学生は自分たちの学習へ肯定感をもつことのできる発表会でした。

中学校1年生が総合的な学習の時間で三条市の施設や名所について調べたことを小学校3年生に向けて発表しました。校舎一体型の学園の良さで、移動が短時間で済むので、武道場や会議室等、5か所に分散して行われました。中学生は、本成寺や保内公園、市役所など市内各所を調べ、その良さについて3年生に分かりやすく話していました。



クイズを取り入れた発表

一ノ木戸ポプラ学園

小中合同学校保健委員会



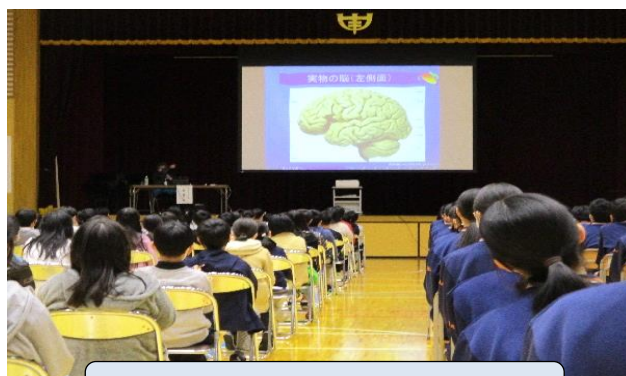
保健委員会による「睡眠の実態と課題」報告

第二中学校の学校医、水野内科クリニックの水野春芳先生より「寝る子は育つ～心と体の成長に大切な睡眠の話～」を演題として講演をしていただきました。

講演を聞き、小学校・中学校それぞれの代表者が、感想と新たな決意を述べました。

子どもたちは、合同保健委員会を通し、「睡眠の大切さ」を改めて感じていました。

小学校5年生と中学校1年生とが、中学校の体育館に集まり実施されました。各校の保健委員会の代表者が「睡眠の実態と課題」について報告し、改善に向けて一人一人が目標をもって取り組んでいくことを呼び掛けました。



学校医の水野春芳先生による講演

大崎学園

PTCA ボランティア・絆づくり集会

11月3日（水）に、今年度2回目のPTCAボランティアが実施されました。前夜からの雨が心配されましたが、当日は青空の下で作業することができました。今回はプランター・地域花壇の植え替え作業を行いました。大崎中学校の時代から続く伝統的な活動ですが、今では前期学園生も加わり、学園・保護者・地域が一緒になって活動しています。



PTCA ボランティア



図書委員会の読み聞かせ



絆づくり集会

また、11月26日（金）に、「絆づくり集会」が実施されました。当日に向けて、後期学園生の図書委員が前期学園の教室を訪れて「読み聞かせ」を行う等、前期・後期の委員会によるコラボ企画が行われました。

絆づくり集会では1～9年生が一緒になって班を作り、「思いやりや互いの良さに気づき絆を深める」ことをテーマに、ダンスやゲームをしました。最後に各クラスで「いじめ見逃しゼロ宣言カード」作りをしました。後期学園生が温かく丁寧に前期学園生の話に耳を傾ける姿が印象的であり、確かな成長を感じました。

これからも1～9年生の交流を大切にすることで、温かな人間関係づくりや子どもたちの成長につなげてほしいと思います。

メンタルヘルス研修

令和3年11月24日（水）実施

講師 上越教育大学 教授 宮下 敏恵 様

労働安全衛生法の改正により、平成27年12月からストレスチェック制度が施行されました。市立学校では、11月にストレスチェックを実施し、結果が個人に届いていることと思います。子どもたちのために精一杯力を注ぐためには、教職員が心身ともに健全で笑顔でいられることが何よりも大切です。メンタルヘルスの目的は、不調を未然に防止することにあります。自分では自覚していないストレスや不調、周囲の支援の状況を客観的に把握することがストレスマネジメントの第一歩です。



ストレスチェックの結果を踏まえたメンタルヘルスを目的として、市内学校教職員、保育園、認定こども園、保育所、幼稚園に勤務する職員を対象に研修を実施しました。上越教育大学の宮下敏恵様から、ストレスチェックの方法や活用、管理職が行う職場環境改善や個別の指導などのラインケア、管理職自身のセルフケアなどについて御講演をいただきました。上越教育大学では、教職員のストレスチェック結果を活用し、メンタルヘルスの予防と対策についての出前講座も実施しているとのこと。各学校でも実施を希望される場合には、三条市教育センターに問合せください。（担当：今井）

三条市科学教育推進事業について

三条市科学教育推進事業は、自然への興味関心を高めたり、探究心を高めたりして、理科好きな子どもを育てる、科学工作や模型工作で自分の発想を大切に、物づくりの資質を高めることをねらいとしています。事業内容は次の四つです。

- ① 子どもの科学教室（小学校5、6年生対象、物理・化学・生物・地学・星空教室を開設）
- ② わくわく科学フェスティバル（小、中学生・一般を対象）
- ③ 科学ゼミナール（中学生対象）
- ④ 科学・模型工作教室（小学校5、6年生対象、年間6回開設）

※今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響、天候の関係で、地学教室と星空教室を中止しました。また、わくわく科学フェスティバルは、三条市立大学を会場として、時間、規模、参加者数を縮小しました。次に、今年度の科学ゼミナールについて紹介します。



第4回科学・模型工作教室



生物教室

科学ゼミナール

10月6日（水）午後、7日（木）午前と午後の2日間で、第四中学校、第二中学校、大島中学校で実施しました。

JAXA 広報部特任担当役の宮里光憲 様を講師にお迎えしましたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策から、リモート講演でした。

演題は、「宇宙開発の現状と未来 ～職業選択の多様化～」、プレゼンテーションの目次は、「JAXA の概要」「ロケットの最新情報」「人工衛星の最新情報」「有人宇宙活動」「皆さんが選ぶ宇宙関連職業」「将来の宇宙開発」の六つでした。

ロケットの打ち上げから追尾について、はやぶサ2の偉業、人工衛星の情報が農業や漁業にも関わっていること、無重力での食事、筋力の衰えなど、興味深い内容でした。

本事業は、最新の科学技術に関わる方からの講演を通して、科学の目や探究心を学ぶとともに、そこに従事している方々の生き方に触れ、自分の生き方を考える一助とするものです。

講演後の生徒の感想を紹介します。

- ・ JAXA の宇宙での仕事が、日本の農業や漁業にも関わっていることを知り、すごいと思いました。宇宙飛行士の採用倍率を AKB や乃木坂のオーディション倍率と比較していただくなど、分かりやすい説明でした。
- ・ 将来就きたい職業は全く違うけれど、この宇宙開発へのやりがいや楽しさを聞いて、とても勉強になりました。今日のお話を参考に、職業について考えてみようと思いました。



「JAXA」によるリモート講演（大島中）